研究所だより

（発行）土佐清水市教育研究所
二〇〇八年五月十九日
第二六七号
問い合わせ（八二）三〇一六

ワクワク感・・・

最近、時間の過ぎるのがすごく速くなってきたように感じます。あわただしいのか、世の中のスピードに自分自身がついて行けなくなったのか・・・自分が仕事の腕が立たない・・・小さなこともあります。何かイベントがあるたびにゆび折り数えながら楽しみに待っていたのに、今は「えっ、もう明日・・・」の感じがしてしまいます。何か楽しみもような半減だけでいるように思っています。

地域の祭の時などは、学校も昼まで終わり、通学路をみんなで走って帰ったこと、今も懐かしく思い出されます。お正月やお盆にしてもたくさん親戚が帰ってきて、ほんとに何か特別な期間という感じがしたて・・・今の子どもたちはこんなワクワク感を持ってるだろうか、私たちはこだわりを繰り返しながら過ごして、いろいろな体験をしてきたと思います。それらを通していつの間にか人間関係や、マナー、礼儀を少しずつ勉強していたと思います。

今やデジタル化しつつある子どもたちに、少しでもこんなアナログな時間があるといいなと思う今日この頃です。

ひと言の重さ・・・

少し自分のことを書いてみます。中学校に入学して何かクラブに入ろうと考えました。

いろいろ能力もスポーツ系の思ったクラブに入ったら「何かこ友達のバスケットボールだけ思ったのに優柔不断に入部しました。

そのとき顧問は厳つい感じの、学校でも恐れられた先生でした。練習も厳しく、後悔の念にもとらわれながら、何度かやめようと思いましたが、二年の途中から僕は副キャプテンという重責を担ってしまいました。

その頃は、試合でもスタメンでなかったが、僕は、前述のように失敗を重ねるばかりでした。自分でもどんなときに先生からクソ「おけ。」えは何ようが下手の言葉・・副キャプテンやめ」と言葉以来、・・衝撃のひと言で自信を失ってゆき、試合に出ることが怖くなってきました。

それでもバスケットボールだけは好きで続けていました。顧問の先生が怖くて、「やめます」のひと言が言えなかったこと・・・。

～次号へ続く

（文責・山﨑）